第8回国史対話
横浜視察事前資料

2023年8月9日（水）午後

インターネットから転載した記事・画像は出典を掲載しています。
二次転載はご遠慮ください。
また、本資料を第8回国史対話横浜視察の参考資料としての閲覧以外に利用することは固くお断りします。
※表紙画像の出典は最終ページにあります。

タイムテーブル

13:30　早稲田大学早稲田キャンパス出発
車中で昼食、平山昇先生によるレクチャー

14:30　中華義荘見学

15:30　中華街見学（関帝廟付近）
関帝廟見学後は集合時間まで自由時間となります。周辺を自由にご見学ください

16:30　JICA海外移住資料館見学
JICA海外移住資料館入館後は集合時間まで自由時間となります。館内見学後、周辺を自由にご見学ください。

18:30　インターコンチネンタルホテル横浜オーシャンテラスで夕食

20:30　解散①
ホテルに戻らない方はこちらで解散となります。
最寄り駅：横浜高速鉄道みなとみらい線「みなとみらい」駅（徒歩約5分）、
JR京浜東北線・根岸線「桜木町」駅（徒歩約12分）、横浜駅東口（タクシー乗車約10分）

20:45　インターコンチネンタルホテル横浜出発

21:45　相鉄グランドフレッサ高田馬場着（解散②）

※時間は予定です。交通の状況等により変更する場合があります。

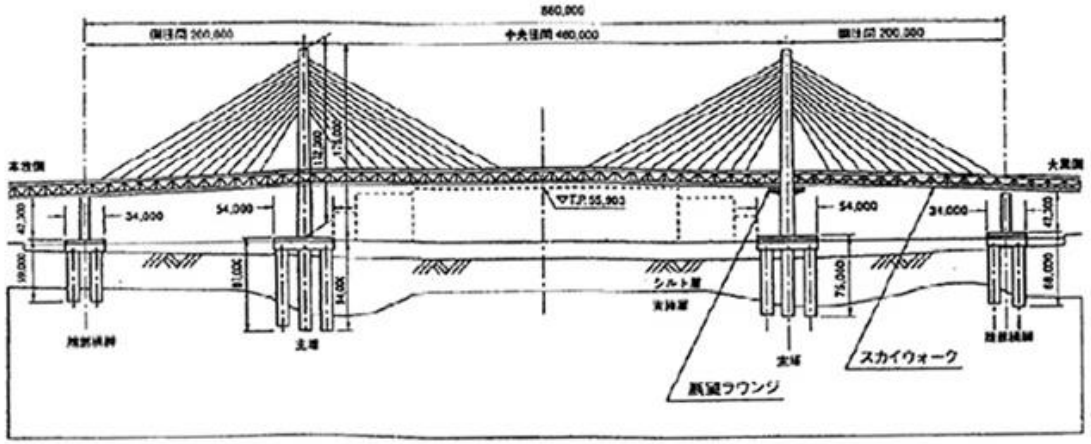
バス画像出典：東京バス株式会社. "貸し切りバスについてのご案内". 東京バス株式会社. http://www.tokyobus.jp/charterbus/, (参照2023-7-28)

大黒ふ頭~ベイブリッジ

- 横浜ベイブリッジの概要

横浜ベイブリッジは、横浜国際航路を横断し、本牧ふ頭と大黒ふ頭を結ぶ高速湾岸線の一部を構成する2層構造の斜張橋です。上層は首都高速道路、下層は国道357号線となっており、港湾物流の一端を担う重要な輸送路の役割も果たしています。

出典：首都高速道路株式会社. “横浜ベイブリッジ　概要“. 首都高ドライバーズサイト. https://www.shutoko.jp/fun/lightup/baybridge/overview/, (参照2023-5-24)



構造形式	斜張橋
橋長	860m
中央径間	460m
塔の高さ	（海面から）175m
供用年月日	1989年9月27日

大黒ふ頭~ベイブリッジ

- 平山昇先生コメント

第5回日本・中国・韓国における国史たちの対話の可能性のテーマは「19 世紀東アジアにおける感染症の流行と社会的対応」でしたが、幕末以来国際貿易港として発展した横浜は常に国際的な感染症流行の最前線にありました。

今回、往路で横浜ベイブリッジを渡りますが、その直前に左手に見えてくるのが大黒ふ頭です。客船の大型化によってベイブリッジの下を通ることができない客船が増えたため、2019年にその外側に大黒ふ頭客船ターミナルが誕生し、超大型クルーズ船が着岸するようになりました。翌年の2020年2月3日、クルーズ船「ダイヤモンドプリンセス」が横浜港に入港し、大黒ふ頭に着岸しました。この日、香港で下船した男性が新型コロナ陽性と発表され、その後、乗客や乗員の感染が相次いで明らかになり、乗っていた約3,700人のうち約700人が感染し、13人が死亡しました。このクルーズ船の模様は連日大々的にメディアで報道され、日本社会において当初は「対岸の火事」と思われていた新型コロナに対する関心をにわかに高めることになりました。

中華義荘

- 中華義荘の成り立ち

横浜開港後、中国人を含む各国の亡骸は山手の外国人墓地に埋葬されていました。その後、中国人埋葬者の増加などにより、明治6年(1873年)に現在の地に国有地を貸与されて中華義荘の原型がつくられました。ただし、最初から墓地だったわけではなく、元々は故郷中国へ棺を送還するまでの仮埋葬の場でした。しかし、大正時代以降になると横浜生まれの華僑も増えて、故郷が横浜である人にとっては、ここが永眠の場所となります。すなわち、本国に帰して葬る習慣（帰葬）が徐々に廃れ、かわりに墓地が造られていきました。

現在、墓地には地蔵王廟（横浜市の有形文化財）、および3階建の安骨堂（納骨堂）があります。また、休憩所は建築後50年が過ぎて老朽化したため、駐車場敷地に新たな休憩所を建設しました。

出典：一般財団法人中華義荘. "中華儀装の成り立ち". 公益財団法人中華義荘. http://z-ck.or.jp/giso/index.html, (参照2023-5-24)

中華義荘

- ここに注目！

視察当日は、一般財団法人中華会館、公益財団法人中華義荘事務局長の関廣佳さん（華僑３世）にご案内いただきます。

また、中華義荘の休憩所2階には、小さな華僑資料コーナーがあります。

中華街の歴史紹介のパネルや、近年発掘された関東大震災で倒壊した中華会館の銘板、華僑がつくった周ピアノ・李ピアノ、戦後の中華青年会の獅子舞などの現物資料が展示してあります。

墓地からは旧根岸競馬場の建物を望むことができます。

根岸外国人墓地

- 平山昇先生コメント

現在、横浜市内には４つの外国人墓地があります。

今回は訪れることができませんが、中華義荘から歩いて15分ほどのところにある根岸外国人墓地は、明治以来横浜で亡くなった外国人（主に欧米人）を葬った墓地です（日本人の妻の墓もあります）。その一角に、1945年の敗戦後に占領軍の兵士たちと日本人女性とのあいだに生まれてすぐに亡くなった子どもたちを葬った区画があります。一部は墓碑もあり、この世に生まれてわずか１日で亡くなった子もいたことがわかりますが、多くの子どもたちは墓碑も無く地中に眠っていると考えられています。

横浜は、幕末の開国、そして敗戦後の占領軍の上陸という二度の「開国」の両方で最前線の地となりました。いずれも大量の独身男性がなだれ込んでこんでくる（当然、感染症や性病もなだれ込んでくる）という動きを伴いましたから、常に女性たちを巻き込む性の生々しい実態がありました。

【事務局より】
残念ながら大型バスが付近まで進入できず、根岸外人墓地は今回見学できません。
根岸外人墓地については、平山先生のコメントのみご紹介いたします。

旧根岸競馬場一等馬見所

- 旧一等馬見所

横浜開港から７年後の1866年、イギリス駐屯軍将校らが設計・監督のもと、日本で最初の本格的な競馬場施設「根岸競馬場」が建設されましたが、関東大震災によって根岸競馬場の施設は大半が崩壊してしまいました。１９２９年J・Hモーガン設計により一等馬見所が建設され、その後二等馬見所が増設されています。

出典：公益財団法人横浜緑の協会. "旧一等馬見所". 根岸森林公園. 2022-11-2. https://www.hama-midorinokyokai.or.jp/park/negishi/details/post-85.php, (参照2023-5-24)

旧根岸競馬場
一等馬見所

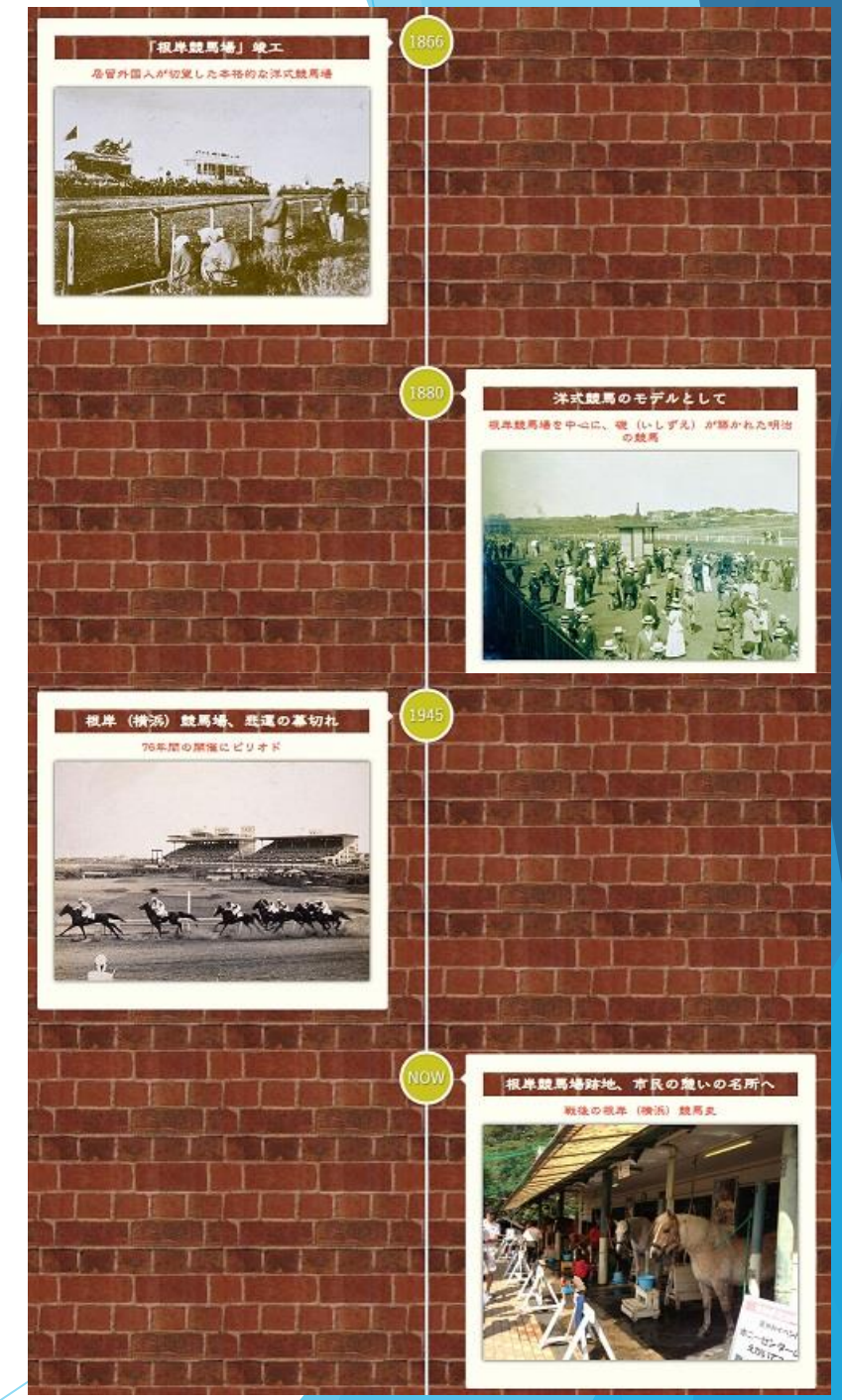
競馬場の歴史については、

馬の博物館のHPに詳しく

掲載されています。

https://www.bajibunka.jrao.ne.jp/nk150/history/index.html

出典：公益財団法人馬事文化財団. "横浜と馬、競馬の歴史". 根岸競馬場開設150周年 馬事文化財団設立40周年記念サイト. https://www.bajibunka.jrao.ne.jp/nk150/history/index.html, (参照2023-5-24)



横浜中華街

- 横浜中華街の歴史

1859年、横浜の港が開かれると、現在の山下町と日本大通り一帯に外国人居留地が設けられ、世界各地の人々が訪れました。広東・香港・上海などから中国人が横浜を訪れ、貿易や洋裁・洋館建築など西洋人の暮らしを支える仕事を始め、これが横浜中華街の基礎となりました。

20世紀初頭には華僑は5,000人に達するまでになりましたが、関東大震災が襲い、横浜中華街は壊滅的な打撃を受けました。一時は200人あまりに激減した華僑も、昭和初期には3,000人余りに回復。しかし、今度は戦争が起こります。華僑は厳しい生活を強いられたうえ、1945年の横浜大空襲では横浜中華街が一面火の海となりました。

戦後の復興は闇市から始まりました。1955年には初代の牌楼（ぱいろう）が建ち、高度経済成長を背景に街は発展し、1972年の日中国交正常化を追い風に、中華料理店が建ち並ぶ全国的に知られる観光地となりました。

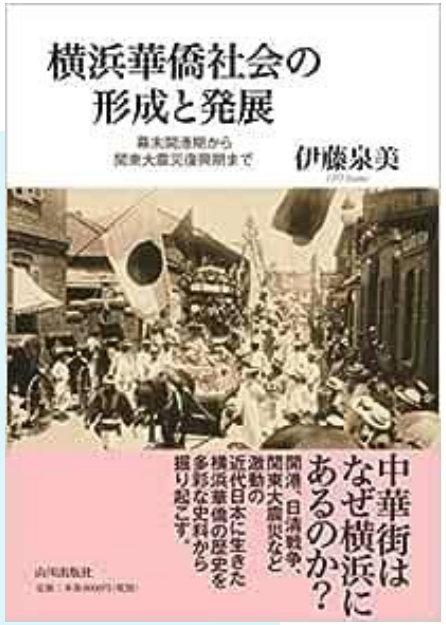
21世紀に入ると10の牌楼や横浜媽祖廟が完成し、魅力はより充実しました。コロナ禍という苦難も乗り越え、再び新しい歴史を刻んでいます。

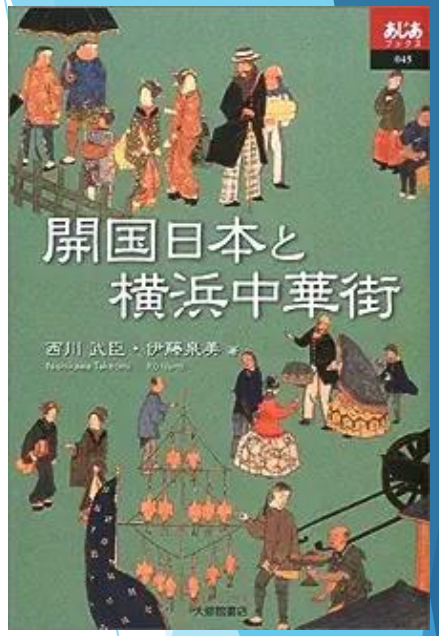
出典：横浜中華街発展会協同組合. "横浜中華街の歴史". こい旅横浜　横浜中華街. https://koitabi.yokohama/#history, (参照2023-7-6)

横浜中華街

- 参考文献
  - 伊藤泉美『横浜華僑社会の形成と発展』
  山川出版社、2018。
  - 西川 武臣、伊藤泉美『開国日本と横浜中華街』
  大修館書店、2002。

  - 横浜文化観光サイト
  「こい旅横浜　中華街」https://koitabi.yokohama/
  中文／한국어でもご覧いただけます。





- 横浜中華街の関帝廟付近でバスを降ります。
- 関帝廟を見学した後は自由時間となります。中華街を自由に見学してください。中華街到着時に集合時間をお知らせしますので、時間になりましたらバスを降りた時と同じ場所に集合してください。

出典：山川出版社. “横浜華僑社会の形成と発展”. 歴史の山川 山川出版社. https://www.yamakawa.co.jp/product/52024, (参照2023-8-4)
大修館書店. "開国日本と横浜中華街". 大修館書店. https://www.taishukan.co.jp/book/b198031.html, (参照2023-7-6)

横浜中華街

- 中華街ガイドマップ2023 （日本語版）

https://www.chinatown.or.jp/wp-content/themes/china2/pdf/chinatown-guide2023.pdf

- 中華街ガイドマップ2023（英語版）

http://www.chinatown.or.jp/wp-content/themes/china2/pdf/chinatown-guide_e.pdf

横浜中華街　関帝廟

- 横浜関帝廟の歴史

ペリー提督が東京湾に来航して徳川時代が幕を閉じるとともに、日本の鎖国は終わりを告げました。その後まもなく、1859年に横浜が開港しました。多くの中国人が商人や職人として横浜に移住し、現在、山下町として知られる地区で暮らし始めました。1862年に関聖帝君の木像を祀る小さな祠が中華街の裏通りに建立されました。1871年には関東地方の華僑たちの寄付により、本格的な中国様式の関帝廟が建設されました。1886年に初代の関帝廟が拡張され、1891年にはさらに改築が行われました。

1923年の関東大震災により中華街は大きな被害を受け、関帝廟も倒壊しました。生き延びた人々は神戸や大阪に避難し、また広東や上海に帰国した人もいました。街が復興するにつれてその多くは横浜に戻ってきました。関帝廟の再建は中華街の復興のシンボルでした。1925年の秋、二代目の関帝廟が中華会館の裏手に再建されました。

第二次世界大戦中の米軍による横浜大空襲により、1945年5月29日に中華街は再び焦土と化し、関帝廟も焼失しました。戦後に再興の取組みが始まり、古材を利用して1947年の初夏、三代目の関帝廟が完成しました。

1986年の元旦、再び災厄に見舞われ、関帝廟は原因不明の火災により焼失しました。関聖帝君、観音菩薩、および地母娘娘の像は奇跡的に無事でした。横浜関帝廟再建委員会が組織され、多くの人々の協力により、現行の関帝廟の再建が始まりました。本土出身の中国人建築士が選ばれ、装飾や建築資材は可能な限り中国から輸入されました。横浜、東京、大阪、神戸の 2000人以上の華僑が力を合わせ、再建のために 6億円 の募金を集めました。それまで関帝廟は中華街の裏通りに祀られ、参拝者はほとんどが地元の華僑でしたが、四代目の関帝廟はより便利な、地元の人も横浜を訪れる人も気軽に足を運べる場所に移ることになりました。火災の5年後、1990年8月14日に現在の四代目関帝廟は開廟式を迎えました。

出典：一般社団法人　横浜関帝廟. "横浜関帝廟の歴史". 横浜関帝廟. https://yokohama-kanteibyo.com/history/, (参照2023-7-6)

横浜中華街

- 平山昇先生コメント

横浜中華街の歴史については、伊藤泉美先生（横浜ユーラシア文化館副館長・日本華僑華人学会第10期会長）の御研究がたいへん参考になります。伊藤先生の御著書『横浜華僑社会の形成と発展』（山川出版社、2018、第36回大平正芳記念賞受賞）は、以下のような重要なポイントを明らかにしています。

・幕末の対欧米開国後、日本にもっとも多くやってきたのは条約国ではない中国人だった。

・横浜中華街の形成には、日中の政治外交史（日清修好条規、日清戦争、辛亥革命）が深く関わった。

・関東大震災(1923年)による人口激減が、現在の「中華料理街」の性格の街への転換点となった。

岩亀楼灯篭（ご紹介のみ）

出典：Machiquest,inc.”岩亀楼の石灯籠”. Monumento. https://ja.monumen.to/spots/543, (参照2023-5-24)

画像出典： N&S. “【YOKOHAMA SNAP】岩亀楼の石灯籠”. THE YOKOHAMA STANDARD. http://theyokohamastandard.jp/article-4467/, (参照2023-5-24)

横浜市が設置している岩亀楼の石灯籠の案内板を紹介します。

- 岩亀楼の石灯籠

横浜公園 一帯は江戸時代の末期までは入海で、安政三年（一八五六年）に埋立てられ太田屋新田といった。

横浜開港にともない、新田の沼地約一万五千坪が更に埋立てられ、港崎町と命名され、その中に岩亀楼などが開業し国際社交場として栄えた。

港崎町一帯は慶應二年（一八六六年）の大火（通称豚屋火事）で焼失し、跡地は当時在留の外国人の要望で公園として再生することにきまり、明治九年（一八七六年）日本最初の洋式公園（横浜公園）が誕生した。

当初、彼我公園と俗称され、明治三十二年（一八九九年）神奈川県の所管から横浜市の管理に移り、市民に公開され今日に至った。

この灯籠は、妙音寺（南区三春台）から横浜市（横浜開港資料館）に寄贈されたもので、石に刻んである「岩亀楼」の文字から、岩亀楼にちなむものであることがわかる。

岩亀楼は、はじめ港崎町に建てられ、慶應二年の大火で類焼、以後二転三転して明治十六年（一八八三年）永楽町に移り、明治十七年に廃業した。

この灯籠は明治初年頃のものと思われるが、いつ妙音寺に移されたかは判明していない。震災、戦災によって多くの文明開化期の遺物を失った横浜にとっては貴重な文化財の一つといえよう。

昭和五十七年十二月

横浜市

【事務局より】
横浜中華街のすぐそばにありますが、今回は時間の関係で立ち寄ることができません。
この資料でのご紹介のみとなります。

岩亀楼灯篭（ご紹介のみ）

- 平山昇先生コメント

横浜の野球ファンが集う横浜スタジアムは横浜公園にあります。この公園の片隅にひっそりとたたずんでいる石灯籠は、かつて幕末に横浜が開港したときに外国人相手の遊郭（港崎〔みよざき〕遊郭）ができた際、そのなかでも最も栄えたといわれる岩亀楼の面影を残す数少ない痕跡です。

この遊郭では、慶應２年の火事によって一晩で数百人の遊女たちが死ぬという悲劇が起こりました。幕末の開国と第二次世界大戦の敗戦の両方で、「性の防波堤」という論理で大規模な遊郭・慰安所が横浜に置かれたということは、きわめて重要な歴史です。なお、この岩亀楼には、日本で最初の梅毒専門病院（英国海軍からの強い圧力により設置）の仮病院も設置されていました。

参考文献

大川由美「近代検黴制度の導入と英国「伝染病予防法」　―英国海軍医官G.B.ニュートンを中心に―」『日本歴史』第623号、2000年

JICA海外移住資料館

- 海外移住資料館は南北アメリカを中心とした日本人の海外移住の歴史および移住者と日系人の現在をテーマにした資料館です。日本の海外移住の歴史、そして移住者が移住先国や日本に対して果たした役割や貢献、および移住者と日系人の現在の姿を多くの人々に知っていただくため、2002年に移住船出港地の一つであった神奈川県横浜市に、横浜センター設立とともに海外移住資料館を開館しました。
- 閲覧室には、海外移住に関する約20,000点の参考文献や資料を所蔵しています。

出典：独立行政法人　国際協力機構. "海外移住資料館". JICA独立行政法人 国際協力機構. https://www.jica.go.jp/domestic/jomm/index.html, (参照2023-7-6)

JICA海外移住資料館

- 平山昇先生コメント

現代では長距離移動で航空機を利用するのが一般的です。しかし、1970年代以降に大型旅客機が普及して運賃が低廉化するまでは、航空機はきわめて高価で限られた富裕層のみの乗り物でしたから、大多数の人々は長時間をかけて大洋を船で渡るしかありませんでした。現在では、「日本の玄関口」といえば成田空港や羽田空港ですが、半世紀ほど前までは、横浜港や神戸港が多くの人びとにとって「日本の玄関口」だったのです（日本とシアトルを結ぶ太平洋航路で活躍した「氷川丸」が引退したのは1960年でした）。外国から日本にやって来る人も、日本から外国へ向かう人も、ほとんどがこれらの国際港を経由しました。このJICA海外移住資料館では、ここ横浜港から移民として海外へ向かっていった人たちの歴史を知ることができます。

JICA海外移住資料館
周辺のご紹介

- JICA海外移住資料館見学は時間を多めにとっていますので、周辺を自由に散策いただけます。（交通状況等により、自由時間が少なくなる場合があります。）
- 周辺には横浜赤レンガ倉庫があります。様々なショップがあり、イベントなども開催されていますので、お土産購入など自由にお過ごしください。
- この一角にある「横浜赤レンガ倉庫1号館」は明治末期から大正初期に国の模範倉庫として建設されたレンガ造りの歴史的建造物です。
- JICA海外移住資料館到着時に集合時間をお伝えしますので、時間になりましたらJICA横浜前に集合してください。

出典：公益財団法人横浜観光コンベンション・ビューロー. “横浜赤レンガ倉庫”. 横浜観光情報 https://www.welcome.city.yokohama.jp/spot/details.php?bbid=184, (参照2023-5-24)

JICA海外移住資料館
周辺のご紹介

- 歴史的建造物としての横浜赤レンガ倉庫1号館

横浜赤レンガ倉庫1号館は、創建時1913年（大正2年）のたたずまいを残し、当時の建築技術を駆使した特徴ある設備を現在まで保存しています。

国産鋼材、レンガ、瓦、防火戸・戸車、輸入鋼材、避雷針、階段室、保存エレベーター、エレベーター塔屋、コルゲート天井、揚重機室、非常用水栓、石畳、鉄道レール、旧税関事務室、旧横浜駅プラットフォーム

出典：Yokohama Art Foundation. “歴史的建造物としての横浜赤レンガ倉庫1号館”.　横浜赤レンガ倉庫1号館. https://akarenga.yafjp.org/about/, (参照2023-5-24)

夕食会場のご案内

- インターコンチネンタルホテル横浜　オーシャンテラス（ビュッフェ）

当日は「世界美食紀行 ～カリブ海·中南米～」を開催しています。

  - 豪快にグリルした肉料理などを南国気分で楽しめる
  - 暑い夏にぴったりの、豪快にグリルした肉料理やスパイシーなメニューが揃う「世界美食紀行 ～カリブ海・中南米～」を開催。栄華を極めた古代文明の時代から大航海時代のヨーロッパとの交流を経て、多様な文化が融合した豊かな食文化から生まれた多彩な料理が並びます。横浜にいながらにして、エスニックな食の旅をお愉しみください。

出典：株式会社横浜グランドインターコンチネンタルホテル.”世界美食紀行 ～カリブ海·中南米～”. InterContinental Yokohama Grand. https://www.icyokohama-grand.com/restaurant/detail.php?rpid=99, (参照2023-7-28)

インターコンチネンタルホテル横浜
最寄り駅のご案内

- ホテルに戻らない方は、インターコンチネンタルホテル横浜で解散となります。
  - 最寄り駅
    - 横浜高速鉄道みなとみらい線「みなとみらい」駅（徒歩約5分）
    - JR京浜東北線・根岸線「桜木町」駅（徒歩約12分）
    - 横浜駅東口（タクシー乗車約10分）

- 相鉄グランドフレッサ高田馬場に戻る方はバスでお送りいたします。

バス画像出典：東京バス株式会社. "貸し切りバスについてのご案内". 東京バス株式会社. http://www.tokyobus.jp/charterbus/, (参照2023-7-28)

謝辞

第8回国史対話横浜視察は神奈川大学国際日本学部文化交流学科准教授の平山昇先生にコーディネートしていただきました。
国史対話にも何度もご参加くださり、いつも対話を深める重要なご発言をしてくださっていますが、今回の視察プランの提案に関しても沢山のアイディアを出してくださいました。残念ながら時間が合わず断念しましたが、当初は生麦事件の舞台となった生麦地区を訪れ、キリンビール横浜工場を見学後、出来立てのビールで乾杯するというプランもありました。
事前資料にもコメントをご執筆くださり、当日はバス内でお話もしてくださることになっています。
この場を借りまして、ご協力にお礼申し上げます。どうもありがとうございました。

表紙の画像出典

【中華義荘】

財団撮影（2023.7.18）

【関帝廟】

一般社団法人　横浜関帝廟. "関帝廟". 横浜関帝廟. https://yokohama-kanteibyo.com/kuan-ti-miao/, (参照2023-7-6)

【ベイブリッジ】

首都高速道路株式会社. "横浜ベイブリッジ　ギャラリー“. 首都高ドライバーズサイト. https://www.shutoko.jp/fun/lightup/baybridge/, (参照2023-5-24)

【旧根岸競馬場一等見所】

財団撮影（2023.7.18）

【JICA横浜】

独立行政法人　国際協力機構. "JICA横浜". JICA独立行政法人　国際協力機構. https://www.jica.go.jp/domestic/yokohama/index.html, (参照2023-7-6)